

平成14年度試験研究成果書

区分	普及	題名	水稻オリジナル品種「もち美人」の栽培法			
[要約] 倒伏を回避し、高品質米を安定生産するための期待生育量は、m ² 当たり穂数が320～360本、同籾数23～27千粒、登熟歩合85～90%、稈長は85cm以下、この時の玄米収量は500～560kg/10aである。施肥量は、基肥は「ヒメノモチ」より1kg/10a多い6kg/10aを上限、追肥は減数分裂期を重点に2kg/10a以内とする。刈り取り適期の目安は、出穂後積算平均気温で950～1050である。						
キーワード	糯米	もち美人	期待生育量	農産部	水田作研究室	

1 背景とねらい

平成14年に県奨励品種に採用された水稻糯品種「もち美人」は、栽培特性、餅食味、加工適性に優れる中生の品種である。また、この品種は、「ヒメノモチ」との作期分散が可能で、「ヒメノモチ」の主要な生産地である、紫波・矢巾地域を中心に作付けの拡大が見込まれる。

このため、良質・安定生産のための栽培法を検討してきた結果、指標となる知見が得られた。

2 成果の内容

(1) 期待生育量

もち美人の良質米安定生産にむけた期待生育量

収量水準 kg/10a (1.9mm篩)	穂数 本/m ²	一穂籾数 粒	籾数 千粒/m ²	玄米千粒重 g (1.9mm篩)	登熟歩合 %	稈長 cm
500～560	320～360	67～76	23～27	25	85～90	85以下

(2) 栽培法

基肥	追肥	刈取り適期
窒素成分で6kg/10aを上限とする。	減数分裂期重点とし窒素成分で2kg/10a以内とする。	出穂後積算平均気温は950～1050で、黄化籾割合は80～85%程度。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 一穂籾数、玄米千粒重は総籾数と登熟歩合の好適範囲から算出した。
- (2) 出穂後積算気温が1100を超えると茶米などの被害粒が急激に増加するので、刈り遅れにならないように注意する。
- (3) いもち病抵抗性が葉いもちが“やや強”、穂いもちが“強”であり、「ヒメノモチ」に準じた基本防除が必要である。
- (4) 穂発芽性が“やや易”と「ヒメノモチ」に近く、降雨が続くと立毛中でも、穂発芽するので適期刈取りにつとめる。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等
「もち美人」の栽培地帯(矢巾、紫波以南、北上川流域の標高250m以下)
- (2) 期待する活用効果
「もち美人」の良質安定生産

5 当該事項に係る試験研究課題

- (803) 「奨励品種決定調査(予備調査、本調査、現地調査)」(H14～H18、県単)
- (804) 「糯米の高品質安定生産技術の確立」(H14～H15、県単)
- (1000) 「水稻新品種「岩南糯19号」の栽培法」(H14～H15、県単)

6 参考文献・資料

- (1) 平成13年度岩手県農業研究センター試験研究成果
品種 オリジナル中生もち水稻 餅加工適性に優れた「岩南糯19号」
- (2) 岩手県農業研究センター 平成10～14年度試験成績書(一部未定稿)

7 試験成績の概要 (具体的なデータ)

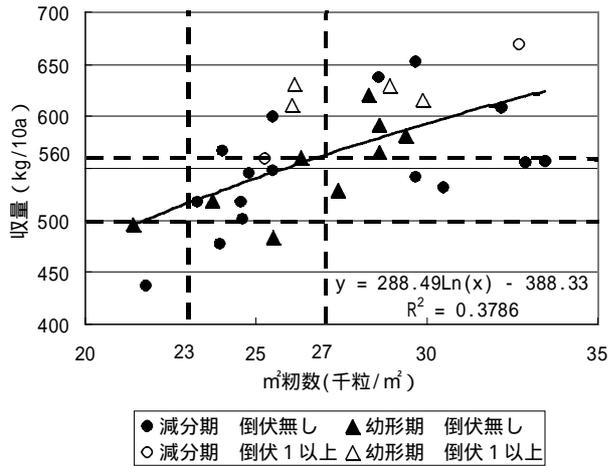


図1 m²当たり粒数と収量 (H10 ~ 14)

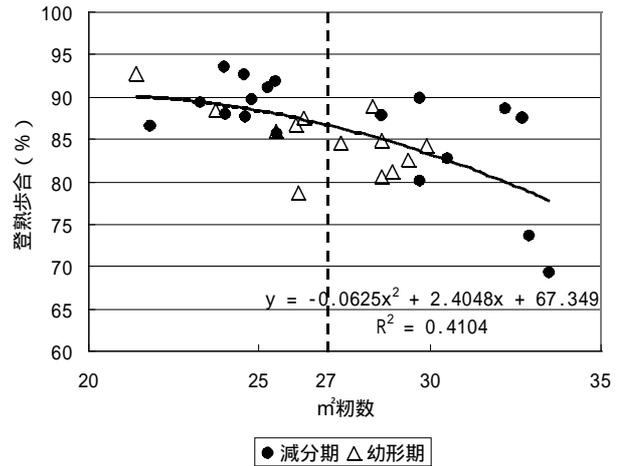


図2 m²当たり粒数と登熟歩合 (H10 ~ 14)

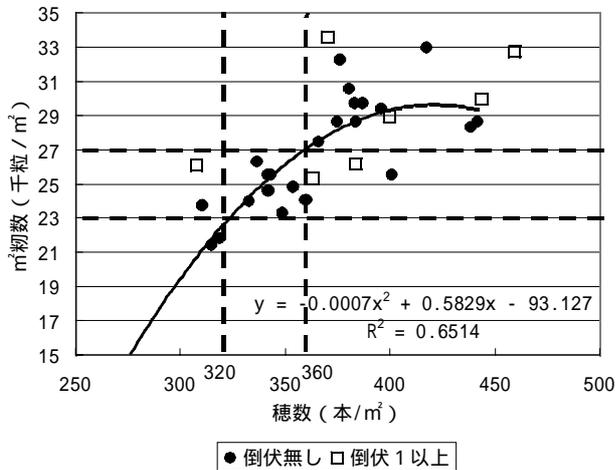


図3 m²当たり粒数とm²当たり穂数 (H10 ~ 14)

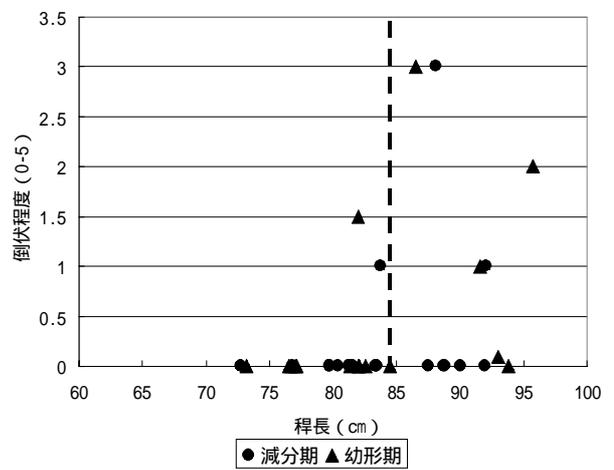


図4 稈長と倒伏 (H10 ~ 14)

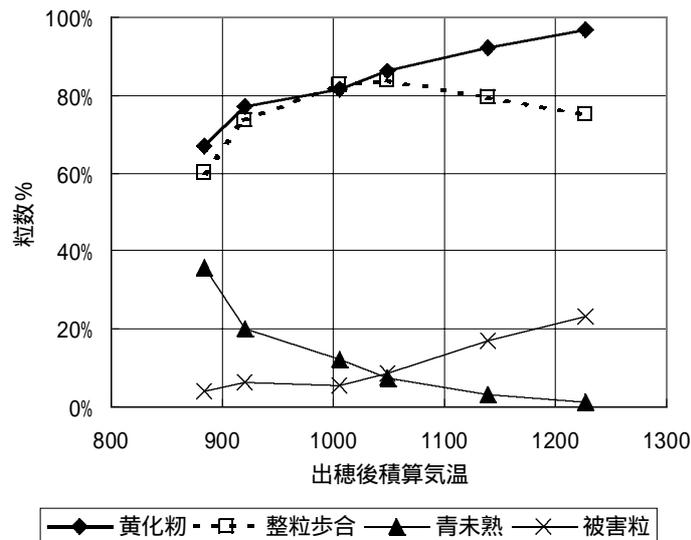


図5 刈取時期別の玄米品質の推移 (H14)
 被害粒は 1000 を過ぎたころから、割合が高くなり、1100 を超えると急激に増加する。
 注) 被害粒は、茶米、発芽粒等で胴割粒、碎米は含まない。